

Title	人生100年時代の労働法政策：長期雇用保障から「キャリアの保障」へ
Sub Title	Labor law in the 100 years of life : from life-time employment to career protection?
Author	両角, 道代(Morozumi, Michiyo)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2021
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>研究代表者（両角道代法務研究科教授）は、2020年度中にスウェーデンのルンド大学法学部においてワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の両立）をテーマに関する調査及び研究発表を行い、現地の研究者と意見を交換する予定であった。しかし、コロナ禍により出張を断念せざるを得なくなったため、文献の収集やメールによる現地研究者への問い合わせ等を行い、その知見を踏まえて論文「性差別禁止とライフコーススウェーデン法を中心とする比較法的考察」（季刊労働法2012年夏号掲載予定）を執筆した。この論文は性差別禁止と両立支援とのかかわりを比較法的に考察したもので、2020年度中に刊行された「スウェーデンにおける親休暇・親給付の構造-法的視点から」社会保障研究第16号（2020年6月）と対になる内容であり、理論的検討を踏まえて、この分野における日本法の解釈や立法政策を考える際に参考になる視点を提供することをめざしている。近い将来にぜひスウェーデン出張を実現させ、さらに研究を進めたい。</p> <p>研究分担者（森戸英幸法務研究科教授）は、コロナ禍により海外での現地調査等が困難となったため、国内での執筆活動に重点を移して研究を行った。本研究課題に関連する業績としては、「定年後再雇用拒否の有効性」ジュリスト1547号103頁、「労働契約における職種限定の有無」ジュリスト1549号4頁、「有給病気休暇・扶養手当の不合理性と「相応に継続的な勤務」」ジュリスト1553号4頁、「メトロコマース事件最高裁判決を考える」年金ストラテジー296号2頁などがある。また研究会での報告（東京大学労働法研究会など）、講演（「日本の私的年金制度の現状と将来の展望」生命保険論集211号1頁）、座談会（「雇用システムの変化と法政策の課題—「ジョブ型雇用社会」の到来？」ジュリスト1553号16頁）などの場における意見交換も幅広く実施した。</p> <p>Morozumi studied Swedish labor law and social security law focused on "work-life balance". She has written an article titled "Prohibition of sex discrimination and life course of men and women in Sweden and other countries" for Quarterly Labor Law vol.273, which will be published in summer 2021.</p> <p>Morito published several articles concerning denial of reemployment after the mandatory retirement age, restriction of duty in labor contract, etc. He also made presentation, gave a lecture, and organized a round-table session on the topics related to this study to exchange opinions with other scholars and experts.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2020000009-20200038

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	大学院法務研究科(法科大学院)	職名	教授	補助額	550	千円
	氏名	両角 道代	氏名(英語)	Michiyo Morozumi			
研究課題(日本語)							
人生100年時代の労働法政策—長期雇用保障から「キャリアの保障」へ							
研究課題(英訳)							
Labor Law in the 100 years of life – From Life-time Employment to Career Protection?							
研究組織							
氏名 Name		所属・学科・職名 Affiliation, department, and position					
両角道代(Michiyo Morozumi)		法務研究科教授					
森戸英幸(Hideyuki Morito)		法務研究科教授					
1. 研究成果実績の概要							
<p>研究代表者(両角道代法務研究科教授)は、2020年度中にスウェーデンのルンド大学法学部においてワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭の両立)をテーマに関する調査及び研究発表を行い、現地の研究者と意見を交換する予定であった。しかし、コロナ禍により出張を断念せざるを得なくなったため、文献の収集やメールによる現地研究者への問い合わせ等を行い、その知見を踏まえて論文「性差別禁止とライフコーススウェーデン法を中心とする比較法的考察」(季刊労働法2012年夏号掲載予定)を執筆した。この論文は性差別禁止と両立支援とのかかわりを比較法的に考察したもので、2020年度中に刊行された「スウェーデンにおける親休暇・親給付の構造—法的視点から」社会保障研究第16号(2020年6月)と対になる内容であり、理論的検討を踏まえて、この分野における日本法の解釈や立法政策を考える際に参考になる視点を提供することをめざしている。近い将来にぜひスウェーデン出張を実現させ、さらに研究を進めたい。</p> <p>研究分担者(森戸英幸法務研究科教授)は、コロナ禍により海外での現地調査等が困難となったため、国内での執筆活動に重点を移して研究を行った。本研究課題に関連する業績としては、「定年後再雇用拒否の有効性」ジュリスト1547号103頁、「労働契約における職種限定の有無」ジュリスト1549号4頁、「有給病気休暇・扶養手当の不合理性と「相応に継続的な勤務」」ジュリスト1553号4頁、「メトロコマース事件最高裁判決を考える」年金ストラテジー296号2頁などがある。また研究会での報告(東京大学労働法研究会など)、講演(「日本の私的年金制度の現状と将来の展望」生命保険論集211号1頁)、座談会(「雇用システムの変化と法政策の課題—「ジョブ型雇用社会」の到来?」ジュリスト1553号16頁)などの場における意見交換も幅広く実施した。</p>							
2. 研究成果実績の概要(英訳)							
<p>Morozumi studied Swedish labor law and social security law focused on “work-life balance”. She has written an article titled “Prohibition of sex discrimination and life course of men and women in Sweden and other countries” for Quarterly Labor Law vol.273, which will be published in summer 2021.</p> <p>Morito published several articles concerning denial of reemployment after the mandatory retirement age, restriction of duty in labor contract, etc. He also made presentation, gave a lecture, and organized a round-table session on the topics related to this study to exchange opinions with other scholars and experts.</p>							
3. 本研究課題に関する発表							
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)				
森戸英幸	日本の私的年金制度の現状と将来の展望	生命保険論集211号1頁	2020年6月				